



卒業を祝して

歯学部長 前田 健康

歯学科第43期生の皆さん、口腔生命福祉学科第6期生の皆さん、ご卒業、誠におめでとうございます。新潟大学歯学部でかけがえのない学生生活、青春時代を過ごし、本日めでたくご卒業される皆さんに、歯学部教職員を代表して、心からお祝い申し上げます。卒業までの道のりは決して平坦ではなく、今日、晴れの卒業の日を迎えるに至る努力を続けてきたことに深く敬意を表するとともに、心よりお喜び申し上げます。また、これまでの長い間にわたって卒業生の皆さんの勉学を支援されてこられた保護者、ご家族の皆様のご努力に敬意を表するとともに、お喜び申し上げます。

皆さんは、新潟大学歯学部の厳しい教育課程をすべて修了し、本日、学士の称号を与えられ、この春からさまざまな道に進みます。各人の進む道は異なるものの、歯科医学・医療、口腔保健・福祉に携わり、国民の健康の維持・増進に寄与するという皆さんの目標は同一であると思います。21世紀に入り、はや12年が経ち、我が国では総人口が減少し、高齢化がますます進展しています。厚生労働省の調査では、「食べること」、「話すこと」など、口を使うことがお年寄りの方々の生きがいであることが示されています。新潟大学歯学部の教育目標である「口腔や食べることの視点から、包括的な医療人を養成し、社会に貢献できる人材の提供」の下、皆さんがこれまで努力して獲得してきた知識、技術、考え方は、これからの超高齢社会の中で活躍できる基盤となると確信しています。皆さんはこれで「口腔の健康を守るプロ、プロフェッショナル」の一員となりました。これまで「プロフェッショナル」という言葉は「他の人より秀でている能力、技能を持つ専門職」という意味で用いられてきました。そのため、医療など

に従事する専門職には一定の資格・免許等により特別な地位と独占性が認められています。職業という意味を表す英単語として、job, profession, occupation, vocation などがありますが、profession のみが専門職という意味を持ちます。Crussetらはプロフェッションを「複雑な知識体系への精通および熟練した技能の上に成り立つ労働を核とする職業であり、複数の科学領域の知識あるいはその修得ないしその科学を基盤とする実務が、自分以外の他者への奉仕に用いられる天職である」と述べています。このプロフェッションには、高い倫理感・実力、利他主義、社会貢献への努力に対して忠実であることが求められます。プロフェッションの profess には公約という意味があり、社会のために努力することにより、社会から初めてプロフェッショナルと認められ、社会から期待されるとともに、自分たちが仕える相手、その職業、そして社会に対して責任を負うこととなります。そのため、プロフェッショナル、特に医療人には、一層の常日頃の精進が不可欠となります。皆さんが社会からプロフェッションと認められるために、今日の卒業式の日、これからの長い人生に向けて新たな目標を設定しましょう。皆さんが大学教育で学んできた知識・技能・態度はまだ必要最低限のもので、いわば皆さんは、今また新たなスタートラインに立ったばかりです。社会はプロフェッショナルとなる皆さんに対して幅広い教養、豊かな感性、きびしい倫理感を求めてきます。皆さんの目標に向けたこれからの生涯を通じた学習、研修によって社会的な地位が得られるものです。歯科界は少子高齢化、歯科疾病構造の変化などパラダイムシフトの渦中にあります。この変革する時勢に適応していくために、自分をさ

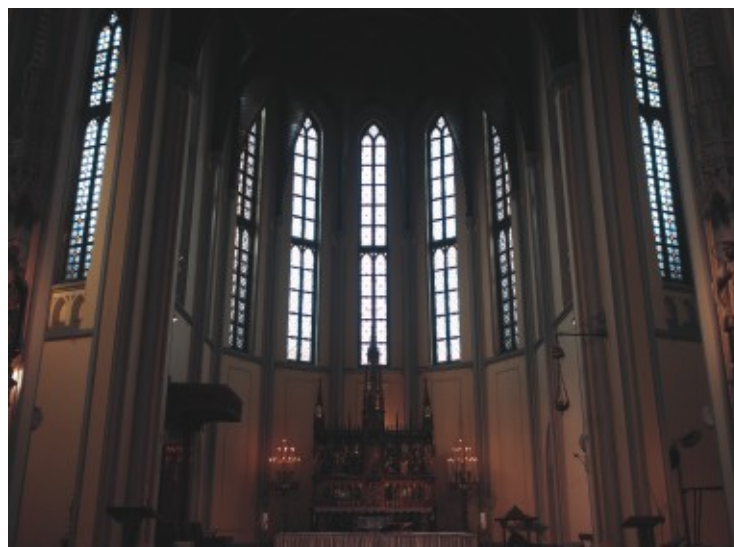
らにスキルアップするための目標を再設定し、努力を続けて下さい。歯科医療・口腔保健従事者という職業を真摯に受けとめながら、プロフェッショナルとしての自信と勇気を持って、社会に対して積極的に貢献することを目指して下さい。このことは現在の競争社会で生き抜いていくために必要不可欠なことです。

今年は巳年です。巳という字は「漢書 律曆志」では「止む」の意味で、草木の生長が極限に達して次の生命が作られ始める時期と解釈しているそうです。また、巳年は蛇年ともいわれ、蛇は医学の象徴的動物となっており、ギリシャ神話に登場する名医アスクレーピオスは蛇を巻き付けた杖を持っています。この杖はアスクレーピオスの杖とよばれ医の象徴として世界的に用いられ、WHO（世界保健機構）等のシンボルマークに用いられ

ています。また蛇は「探求心と情熱の象徴」とされ、蛇は脱皮して再生をくりかえすことから、古くから縁起の良い生き物と信じられています。皆さんがこの平成25年に脱皮し、さらなる飛躍の年にしていただきたいと思います。新潟大学歯学部も新外来棟の開院、歯学部大型改修の着工など、さらなる発展に向けて脱皮しつつあります。

皆さんが今日巣立っていく新潟大学歯学部は競争が激化している歯科界の中で、高い評価を受けています。我々教職員は皆さんに対し、これからの社会で勝ち抜くために必要な考え方、知識、技能を授けてきたと自負しています。新潟大学歯学部を卒業したという誇りを持って社会に羽ばたいていって下さい。

皆さんの今後の活躍を大いに期待しています。





ご卒業おめでとうございます

医歯学総合病院副院長 興地隆史
(歯科担当)

歯学科第43期生ならびに口腔生命福祉学科第6期生の皆さん、この度のご卒業誠におめでとうございます。学生生活の道のりは必ずしも平坦では無かったかと思いますが、無事この日を迎えられたことを心よりお喜び申し上げます。これから羽ばたく実社会では、与えられた課題をクリアすることはもちろんですが、進むべき方向を自身の力で見だし、乗り越えるための方法を自ら考え実践することが求められます。皆さんの今後には紆余曲折もあろうかと思いますが、自分を信じ地道に努力を重ねれば必ずや素晴らしい将来が拓けることと思います。皆さんの光り輝く未来に心から祝福を申し上げます。

さて、歯学科の皆さんは研修医として、また口腔生命福祉学科の皆さんは歯科衛生士、行政職、大学院生などのさまざまな立場で、プロフェッショナルとしての新たなスタート地点に身を置いています。ここからが真のスタートと言っても過言ではありません。未曾有の震災からの復興途上、経済不況、政権交代といった、安定しているとは言いがたい昨今の社会情勢の中では、当然ながら逆風にもまれる場面もあろうかと思っています。勝ち組重視の世知辛い世相といっても過言ではありません。その中で皆さんには、他の同業者にない「光るもの」をできるだけ多く自分のものにして頂きたいと願っています。

その意味で大切なことは、私達の職業には生涯

にわたる学習が求められるという、当たり前のような事柄です。日進月歩の歯科医学や歯科医療の世界に身を置く限り、学ぶべきことは無限にあります。吸収力が豊富な今を是非とも大切にして、貪欲に取り組み、高度職業人として大成するための基礎となる多くの力を速やかに蓄えて頂ければと思います。新潟大学歯学部教育カリキュラムは、臨床実習やPBLを始めとして、単なる知識や技術の詰め込みではなく、皆さんが自分の力で考え、情報を自ら収集、整理して自分のものにするための力が身につけられるようさまざまな配慮がなされたものですので、皆さんには長い生涯学習の道のりを歩み続けるための基礎的な能力がすでに備わっているはずです。それを基に、サクセスストーリーを築き上げて頂けることを心から期待しています。

昨年11月の外来棟移転により、医歯学総合病院歯科系診療部門は新たな一步を歩み始めました。皆さんへの想いとして上に書かせて頂いた事柄を、組織として実践していくべき時期にあるとも言えます。今後は、地域拠点病院としての高度な診療と研究、さらには教育機能をもさらに発展させるための、心機一転の取り組みを行なうこととなります。卒業生の皆さんにも、今後のさまざまな方面からの支援をお願いしますとともに、皆さんの中から将来の本院を支える人材が輩出されることを期待しています。

卒業にあたって

歯学科6年 枝並直樹

こんにちは、今回卒業にあたってを書かせていただきます枝並直樹です。あまり、大きい顔が大きく載りたくなかったので、集合写真にさせていただきました。右上の一番頭が挺出気味なのが私です。

この文章を書かせていただくにあたり、もう6年間も歯学部に通っていたのかと不思議な気持ちがしています。そんな6年間を振り返ると、学校生活の濃度は臨床実習前の5年間と実習の1年間が1：1ぐらいに思われ、思い出もこの1年間のことばかりが思い出されます。

私は大学生活の特に学年が低いときにおいて、授業よりもかなり部活に比重を置いて過ごしており、授業はやっつけのように受けている不真面目な生徒だったと思います。

そのため臨床実習ではわからないことも多く困惑しました。その中で、診療に備え予習したとき、または先生に注意され勉強した時に学ぶことは、実はその多くがすでに今までに教えてもらってきたことばかりでした。6年生にもなり今更ながら、先生方はずっと私たちを何とか歯科医師として使えるようにするため、大切なことを凝縮して、わかりやすいように伝えてくれていたのだなと気付きました。

取り返しは付きませんが、卒業前になって不勉強だった自分への反省と先生への申し訳なさを感じています。もし後輩でこの文章を読んでいる方がいたら、授業は寝ないで聞いた方がいいと伝え

たいです。

また、もうひとつこの1年間の実習であらためて感じたことが、43期というこの学年の素晴らしさでした。43期はゆとり世代ということもあるのが、やや地味でやる気の感じられない学年（自分が一番地味でやる気がないですが……）であったかもしれません。しかし仲の良さに関しては自慢できると思っています。臨床実習においては、みんなが自分の負担が増えても、忙しくて困っている人の雑務を代わったり、臨床実習恒例の（？）先生への順番待ちを代わったりなど、お互い思いやり、協力して1年間過ごせました。私も様々な場面で同級生に助けられ、この学年でよかったと心から思うとともに、43期の一員になれたことを誇りに思っています。

そんな43期も卒業後は研修において、またはその後の進路において、それぞればらばらの進路を歩むことになると思います。考え方の違いなど、同級生のことで気に入らないこともでてくるかもしれません。しかし、このような素晴らしい43期という同じ下地を持った仲間として、将来、いつ、どのような立場、関係においても今と変わらずお互いを思いやり、尊重し合えるような仲が続けていければ素晴らしいと思います。

このように卒業を目前にして、自分が多くの先生方や同級生に支えられていることをあらためて実感でき、新潟大学に入学し卒業できたことをとてもよかったと感じています。

お世話になった先生やその他多くの方々に感謝を忘れず、新潟大学で学んだことを生かし今後も努力を続けていきたいと思っています。



卒業にあたって

歯学科6年 成松花弥

2007年—私が入学したのは、東京理科大学の辻助教授（当時）らが歯の再生技術の開発に成功したと Nature Methods に報告した年です。新聞をはじめとするメディアにも取り上げられ、大学二次試験を控えた高校生には大変鮮烈なニュースでした。世間では歯科医師過剰と言われる中で、何も知らない歯科に対する希望と不安を抱えながら入学しましたが、そこで出会ったのは、先のニュースの衝撃を凌ぐ「志を持った同級生たち」でした。当時の私は、人に貢献出来る仕事が出来ないという思いこそ持ってはおりましたが、それにも勝る好奇心に動かされてやってきたので、歯科医師として働く親の背中を見てきた、あるいはそれまでの人生の中で思うところあって歯科の道を志した同級生たちを知り、自分は果たして全うな歯科医師になれるのかと不安に思いました。

自分の志をみつけるべく、自分が興味を持ったものには出来る限り挑戦しました。学部の中では幾つかの研究に触れる機会に恵まれました。2年生の時には、今はなき「THE CELL」の講義がきっかけとなり超域研究機構の網塚教授（現北海道大学教授）の下で前骨芽細胞に関する研究をさせて頂きました。透過型電子顕微鏡で見える前骨芽細胞の細胞内小器官や周囲の細胞との関係から前骨芽細胞を形態学的に分類し、さらに機能を推測するという内容でしたが、印象的だったのは「形態は機能を表す」という先生の言葉でした。そういった視点で周りを見ると、形態と機能は空間と時間軸とでのものの捉え方の違いでしかないことに気付き、ものの見え方が変わりました。また基礎研究で知ったことが、臨床実習で患者様のお口の中に入れたクラウンのワックスアップにまで繋がるとは思いもよりませんでした。

4、5年生の時には、摂食・嚥下リハビリテーション学分野にて井上教授、中村先生をはじめとする先生方のご指導の下、ヒトの嚥下に関する研究をさせて頂きました。健常若年者を対象とした嚥下反射に関する基礎研究でしたが、その先には



嚥下誘発機能の低下した高齢者や嚥下困難者のリハビリへの応用があります。超高齢社会を迎えた日本において、歯科医師が取り組むべき課題が多くあることを知り、今まで見えなかった歯科医療の社会的役割、可能性を見出すことができました。

あれこれ手を出し「学生の特権」を存分に利用させて頂きましたが、一番大きな出来事はこちらから求めたのではなく、向こうからやってきた臨床実習でした。必要性和責任から勉強に対する姿勢が変わりました。かつて講義中に先生が「臨床で重要だからね」とおっしゃっていたにも関わらず、当時は「面白くないから」理解してこなかった内容の数々。なんと無責任だったのかと、恥ずかしく思います。私に足りなかったのは歯科医師となる自覚だったのだと、患者様を前に目の覚める思いでした。歯科医師として（それ以前に人間として）どうあるべきか、何が求められているのかを患者様に直接関わる中で身に染みて感じました。このような環境を与え私たちを支えて下さった先生方や病院スタッフの方、患者様、支え合った戦友の同級生に深く感謝しております。

振り返ってみれば、本当に多くの方々のご支援、熱意、心遣いで6年間育て頂きました。今、私は6年間で身につけた知識や技術、精神だけでなく、関わった人々から頂いた“心”を持っております。やっとスタートラインに立った身ですので今後もご支援頂くことと思っておりますが、頂いたものを少しずつ社会に返せるよう謙虚に誠実に努力を重ねていきたいと志しております。

卒業にあたって

口腔生命福祉学科4年 藤井 香那

2013年の12分の1が早くも過ぎようとしています。時の流れの早さを身に染みて感じている今日この頃。歯学部ニュース2回目の原稿執筆となる今回は、口腔生命福祉学科4年生の生活と、この4年間で感じたことなどを書きたいと思います。

4年生は臨床実習と福祉現場実習を中心に1年を過ごしました。臨床実習では、1～2週間ずつ各科をまわり、診療補助や予防処置、保健指導を実際に患者様に対して行いました。未熟でわからないことが多く、先生方、看護師さん、患者様にはご迷惑をかけることもありましたが、今まで習ってきた知識や診療の流れを確かなものにし、診療に関わる方々と接する中で、歯科衛生士としての心構えを学ぶことができました。実習の中には、学外の歯科診療所に赴き、特別養護老人ホームや在宅などで行っている訪問歯科診療の見学をさせていただくこともありました。そこでは、要介護者の歯科診療のポイントや訪問歯科診療に関わる地域での多職種連携の必要性を教えてくださいました。実習の最終週では丁度病院移転の時期と重なり、引っ越しのお手伝いをしたのもいい思い出です。福祉現場実習では5週間もの期間を県内の福祉施設で実習させていただき、福祉に携わるための技術や考え方を学びました。教科書で学んだことがそのまま通用しない難しさを感じる時もありました。

それから、4年生の授業の大きな特徴は口腔福祉特論（通称、特論）があることです。自分で調べたいテーマを設定し、それに関する論文を集め、先生方のご指導のもと論文をまとめて、最後に発表をしました。

このように何かと忙しい1年でありましたが、クラスでの楽しみとしては臨床実習終了時に打ち上げをしたり、12月に卒業旅行として草津へ行くこともできました。企画をしてくれたクラスメイトに感謝します。温泉旅行楽しかったです。

4年生になってからは、今まで以上に時間が経つのが早いと思いました。卒業を間近にした今、



草津にて

クラスの皆と励まし合ったことや、部活の仲間、先輩、後輩と日々指導して下さる先生方の温かいお力添えがあったからこそこの節目を迎えることができたと感じます。人と人との繋がりがかけがえのないものだと思った4年間でもありました。

あつという間に過ぎた大学生活でしたが、私は今春より大学院口腔生命福祉学専攻前期博士課程に入学することになりました。研究テーマは、介護予防事業と高齢者歯科保健に関わることです。今まで学んだことに加え、フィールドワークを行うことでより幅広い知識を得て、将来の仕事に還元していくことが目標です。まだまだ専門職として、そして人として未熟な私ですが、これからも周りの人と支え合いながら、日々感謝をして過ごしていきたいと思います。

卒業にあたって

口腔生命福祉学科4年 松田 由佳

4年を振り返ると、「本当にあつという間だったなあ。」というのが私の率直な感想です。勉強に部活に友人との楽しい時間はあつという間に過ぎていきました。大学生活の4年間が充実していたからこそ、このように感じられるのだと思います。

歯学部ニュースの原稿を依頼され、「何を書いたらいいのだろう。」と悩みましたが、私は学科の特徴でもある、歯科と福祉について書こうと思います。というのも私は、福祉を学ぶことについて悩み考えたことが多かったからです。

私たちの学科では、3年生から福祉の勉強が始

まり、歯科と福祉の両方を学んでいきますが、正直私はそのことにとても戸惑いました。「歯科と福祉に何の関係があるの？」と多くの人を感じると思いますが、私もその一人でした。言ってしまうと、あまり興味のない福祉を学ばなければならないことが嫌で、「歯科だけを勉強したい。」と思っていました。しかし、そう思っていた私も、卒業にあたる今、その時とは変わって福祉を学ぶことができて良かったと感じています。

その気持ちの大きな転機となったのは、4年次に福祉施設で行う社会福祉現場実習でした。私たちの学科は、4年次に皆、一時的に臨床実習を離れ、25日間の学外実習を福祉施設で行うのですが、臨床実習を一步離れ、歯科とは全く異なる場所での実習は、私の思いを大きく変える機会となりました。

社会福祉現場実習を通じて、障害を持った方々を支援していくためには、あらゆる支援が必要であり、多職種との連携が欠かせないのと同時に、支援者が様々な視点を持つことはとても重要であるということ強く感じました。また、個別の支援を十分に行っていくためには、支援を欲している人たちの様々な背景と、ひとりひとりの気持ちを汲みとり受容していくことが支援の第一歩になるとも重要なことである、ということも強く感じることができました。



歯科と福祉、分野は違いますが、様々な視点を持ち多職種間での連携を大切にしていける事、ひとりひとりの気持ちを汲み取り受容していく事の重要性は、歯科においても患者様と接していく上でとても重要なことであり、福祉を学ぶことでそのことを何よりも強く感じることができました。この学科に入り、福祉を学ぶことができたからこそ、より強くその重要性を感じる事ができたのだと思います。

今は福祉を学ぶことができよかったですと本当に思います。春からは歯科衛生士として、社会人としての一步を踏み出す私ですが、福祉から学んだことを生かし、あらゆる視点を持てるよう今後も知識の向上に励み、何よりも患者様の気持ちになって考えられる歯科衛生士になれるように日々頑張っていきたいと思っています。

ミニコラム

今年もよろしくおねがいします

学務係 進 藤 美樹子



学務係の進藤美樹子です。この係に来て、かれこれ10年になります。歯学部内では私の顔はわからなくても名前だけはよく知られていると思います。また、学生の間では「怖いおばさん」で通っているようです。私は期限や規則を守らないときは赤鬼に変身しますが、普段は笑顔で優しい「私の進藤」と固く信じています。これからもこのスタンスを変えずに行きますので期待しててくださいね。

さて、今年の仕事においては今まで以上に先生方や学生達への連絡事項の徹底を心がけようと考えています。学務係在職10年のキャリアを活かし、より一層早く且つ正確に連絡できるように頑張ります。そして、学務係の業務が円滑に進むことのお役に立てたらいいなと思います。皆さん、今年もよろしくおねがいします。